

- 天然木、無垢材の床暖房対応フローリングの熱源には、「低温床暖房タイプ」のシステムをお奨めします。なぜなら、「木」はフローリングになってからも生き続けているからです。本来は、生きている木材を片方(裏面)から床暖房にて高温で暖めることが難しいのです。
- 低温床暖房システムは表面温度がおよそ28°C程度です。それに対し、一般的な床暖房システムは表面温度が33°C程度となります。
- 当社の床暖房対応フローリングは、一般的な床暖房システムが決して使えない訳ではありません。これまで東京ガス・大阪ガス・東邦ガス・四国ガス・九州ガス・北海道ガス等の温水式ガス床暖房システムや、フィルム式の床暖房システムで、多数ご利用いただいております。但し、ご採用、ご使用にあたり、下記のリスクを十分ご理解の上、ご採用下さい。
- 当社の床暖房対応フローリングは、床暖房対応にするために樹種によって加工方法は異なりますが、基材(木材)を人口乾燥機や天然乾燥による過乾燥により、含水率を下げて木の水分傾斜を固定したり、木の木管を圧縮する圧密加工をしたり、又は、基材の全面に高分子六面塗装を施しています。
- 床暖房を使用しない、通常の一般使用的無垢フローリングであっても、施工後、数年の間で、部屋の数箇所で、1㍉～3㍉程度のフローリング同士の隙間があります。
(無垢フローリングの場合、床暖房対応フローリング以外でも、例外なく、ほぼ必ず隙きます。)
- 実は、このことは、床暖房対応フローリングでも同じことが言えます。
特に昨今人気の幅広フローリングは、一枚の面積が広く木材自身が、伸縮する可能性がございます。
そして、床暖房対応フローリングは、一般的な「非床暖房用の無垢フローリング」よりは、「縮み」のリスクが少ない、という意味で、どうぞご理解ください。
- つまり、床暖房対応フローリングであっても多少の伸縮、特に「縮み」が出る可能性はございますのでそのことを、予めご承知おき下さい。
この現象は床暖房対応フローリングであっても「木が生きている証拠」であります。
どうしても気になる方は、大手建材メーカー製の単板貼りの「建材合板フロアパネル」をお奨め致します。
- よって、床暖房フローリング同士のジョイント部分が外れてしまうことのない範囲での伸縮については、クレーム扱いの対象にはなりませんので、どうぞご注意の上、ご採用ください。

* 下記、写真程度の伸縮は生じる場合がございます。 (縦方向のフローリングの「サネ」と「サネ」の間の隙間)

